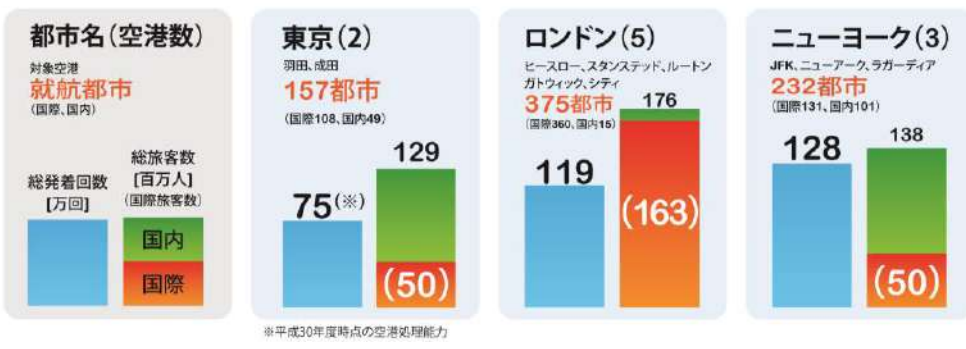


日本の経済・社会を維持・発展させていくためには、諸外国との結びつきを深めていくことが課題です。

- 昨今のグローバル化した世界において、航空は私たちの暮らしには欠かせない存在となっています。人口減少や少子高齢化が進む中、子や孫の代まで日本の経済・社会を維持・発展させていくためには、今後より一層、諸外国との結びつきを深めていくことが課題となっています。



- 世界の主要都市の空港と比較すると、羽田空港・成田空港を合わせても国際線の就航先が少ないのが現状です。また、香港、シンガポール、ソウルなどアジアの主要諸国よりも国際線の就航先数・利用客数ともに下回っています。



2019年のデータ(出展:ACI Annual World Airport Traffic Dataset, 2019 Edition)

- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会やその先の日本の成長を見据え、成田空港とともに羽田空港のあり方について考えていく必要があります。

羽田空港がもっと便利に。世界がもっと身近に。

現在の羽田空港 国際線 1 日最大 80 便 (※)

- 現在の就航先は以下 14 の国・地域 (23 都市) (※)
アメリカ、カナダ、フランス、イギリス、ドイツ、韓国、中国、香港、台湾、タイ、シンガポール、フィリピン、ベトナム、インドネシア

(※) 2019年夏ダイヤの昼間時間帯の就航便数等



これからの羽田空港 国際線を更に 50 便増便へ

- 上記に加え、昼間時間帯に以下の国・地域に新規就航
 - ・ロシア (4便) ・オーストラリア (4便) ・インド (2便) ・イタリア (2便)
 - ・トルコ (2便) ・フィンランド (2便) ・スカンジナビア (2便)
- アメリカ、中国については以下のとおり増便
 - ・アメリカ (+24便) ・中国 (+8便)

国際線発着枠が増え、羽田空港がさらに便利になります。

